

思い出の

学

び

や

卒業式カメラルポ



1



2

①卒園児たちは、お泊まり保育やプール遊びなど、それぞれの思い出を、お世話になった感謝の気持ちとともに声高らかに話していました。

②喜びにひたる卒業生

③先生や下級生からの大きな拍手で見送られました。

④支えてくれた家族に卒業証書を手渡しました。



4



3



6



5

⑤、⑥先生やクラスのみんな、部活のチームメイトで語り合った学校生活。卒業は終わりではなく、彼らにとっての始まり。清く、温かい心を持ち、明日からは夢と希望に満ちあふれた未来へ歩み始める。



8



7

⑦最初に保育所に来た時は、まだ小さく、お母さんの手に引かれて歩いていた園児たちは、今ではこんなにも立派な姿で保育証書を受け取りました。

⑧ろうそくの灯を見つめるその眼差しは、春からの小学校生活を夢見るかのよう

⑨卒業生たちは、自らの手で輝かせる未来を見据えるかのように真っすぐなまなざしで行進。



11



10

⑩卒業の記念に何を渡したのでしょうか。

⑪思い出の詰まった学校生活を振り返る卒業生たちの目には涙があふれていました。



9

⑫「そつえんおめでとう」の門をくぐり、入場してくる卒園児たち

⑬4月からピカピカの小学校1年生になる卒園児たち。楽しかったこと、辛かったこと、いろいろな思い出を心のポケットにたくさん詰めた卒園児たちは、たくましい小学生になることを夢見て、元気いっぱいに歌っていました。



13



12



15



14

⑭校長先生から一人ひとりに卒業証書が手渡されました。

⑮楽しい小学校生活に胸が膨らむ卒園児たちは、元気いっぱいにピアノの音色を響かせました。

卒業生たちの思い



入学してから、勉強や部活、さまざまなことを経験して多くのことを学んできた卒業生たち。友だちができたこと、たくさんのお思い出を作ったこと。時には泣き、時には笑った学校生活の一つひとつが彼らの大切な宝物となっているはず。思い出の学びやを築立っていく卒業生たちにとって、学校とはどんな場所だったかを聞いてみました。



^かの^と
佐藤 叶人 くん (菖蒲川小)

小学校では、友だちと協力することでたくさんのことを学び、精神面で成長できたと思います。中学校では、野球部に入り、勉強と部活を両立できるように頑張りたいです。



^みゆ
中村 美憂 さん (鶴田小)

小学校は、仲間と楽しい時間を過ごした思い出の場所であり、みんなで一つのことに取り組む楽しさを学びました。中学校でも、勉強や部活など楽しい学校生活にしたいです。



^ひびき
瓜田 響 くん (鶴田小)

僕にとって小学校は、仲間と協力することの大切さを学んだ場所でした。特に、学習発表会や野球部での活動が一番の思い出です。このことを中学校でも生かしていきたいです。



^あや^な
松本 恵菜 さん (水元中央小)

小学校は、みんなで協力することは大事だということを感じさせてくれた場所でした。低学年の子たちともたくさん遊ぶことが出来たので、私にとって大切な場所でした。



^あき^{なり}
加藤 燿音 くん (胡桃館小)

小学校では、学校の行事づくりに参加できて楽しかったです。小学校は思い出がある場所でした。中学校では、新しいことや興味があるものをたくさんやってみたいです。



^ほか
鈴木 萌花 さん (梅沢小)

私にとって小学校は成長の場であり、みんなで楽しい思い出を作ることができた場所です。中学校では出来ないことでも自信をもって挑戦し、成長していきたいです。



^ほか
一戸 穂乃花 さん (鶴田中)

私にとって学校は、友だちや家族、先生の存在がありがたいて感じさせてくれた場所でした。高校でも、心の支えになってくれる友だちをたくさんつくりたいです。



^れん
浅利 蓮 くん (鶴田中)

中学校は、仲間の存在の大切さを教えてくれた場所です。特に、野球部のチームメイトと気持ちを一つにして戦った試合の一つ一つが思い出です。高校生活も楽しみます。



^{ゆう}と
寺山 侑翔 くん (富士見小)

小学校は気持ちがやすらぐ場所でした。友だちがたくさん出来て、勉強も楽しかったです。中学校では、人付き合いを大切にしながら、友だちをたくさん作りたいです。

「互いに人として尊重し合い向上心を育む場所」



前梅沢小学校校長

十川 郁夫 氏

人生は例えるなら、一本の木です。私は小学校を木の根っこだと考えています。根っこは木の大事な所ですよ。

小学校は、子どもたちにとってどういう場か。大きく二つに分けられると思います。一つ目は、「お互いに人として尊重し合う場」です。子どもたちには、人として命を尊重することを教え、それを気付かせる場が小学校であると思います。二つ目は、「子どもたちの向上心を育む場」です。自分自身を高めるために目標を持ち、その目標に向かって努力することで向上心は育まれていくことを教え、努力することが大事であることを学ぶ場が小学校だと思います。

互いを尊重し、向上心が育まれている子は、自然と笑顔が出るんですよ。子どもの笑顔には魔法の力があります。以前、私が校長をしていた小学校は、廃校になる前、地域の人たちが学校を訪れて「子どもたちの笑顔が見られなくなるのがさみしい」と話していました。子どもの笑顔には、大人を元気にする力があります。昔に比べ、子ども的人数が減ってきて、助け合いや関わり合いというものが無くなってきた今、学校が子どもたちのそういった心を育てる役割を持つようになってきています。学校は地域コミュニティの中核でもあります。学校の行事に地域の人が子どもたちと参加するなど、地域の中で学校が果たす役割というのは大きいですよ。

卒業する子どもたちはこれから先、人生の壁にぶつかる時が何度もあると思います。そんな時は、自分の足元にある根っこ（小学校で学んできたこと）を掘り起こしてみてください。

教育者に聞く

子どもたちにとっての学校とは

「学校は子どもたちが安心していられる場所」

学校は、子どもたちが安心していられる場であると思います。「安心」というのは、「楽しい」、「先生たちが平等に接してくれる」、そして、「子どもたちが思ったことを素直に言える雰囲気」のことを指します。授業中であれば、子どもたちが自分の意見を、正しいかどうかにかかわらず、ありのままに話せることです。そういう雰囲気があることで、子どもたちは、「間違ったことを話してもいいんだ」という気持ちを持つようになります。そうでないと、子どもたちは自分の思ったことを素直に言えないですよ。正しいかどうかにかかわらず思ったことを言い合える場が子どもたちには大切です。

そういうことで言えば、高学年の子が低学年の子を見てあげることも関係していると思います。昔は、地域の中で上の子が下の子を見てくれる関係がたくさんありました。そういった関係があることによって、下の子は上の子を見て、「こうなりたいな」と思うようになります。だから、地域の行事などを運営する子ども会は大事な役割を果たしています。一方、学校では、異なる学年の子どもたちを組み合わせ、学校の行事や掃除などを一緒に取り組めるようにする「縦割り班」を作っていますよね。以前、私はある小学校で校長をしていた経験がありますが、その学校では、「地域の縦割り班」というものがありました。登下校をするのも一緒、部活が無い日には、外で一緒に遊んだりしていました。地域の縦割りが少なくなってきた今、学校は、縦割りの関係で上の子と下の子がふれあえる貴重な場になっています。



鶴田町教育委員会教育長

中野 雄臣 氏